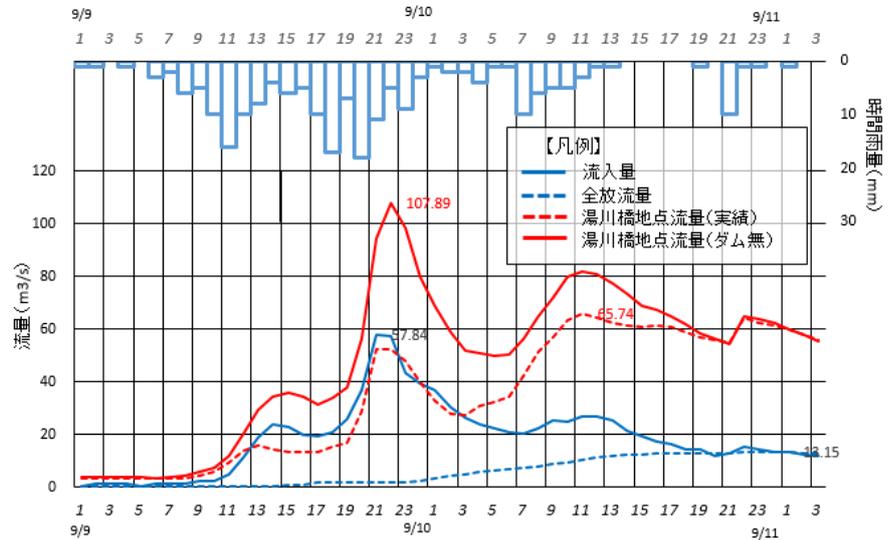


東山ダムの効果

平成 27 年台風 18 号は、9 月 9 日に温帯低気圧に変わりましたが、その後関東から東北にかけ記録的な大雨を降らせ、堤防決壊など各地で大きな被害をもたらしました。

【 降雨の状況 】

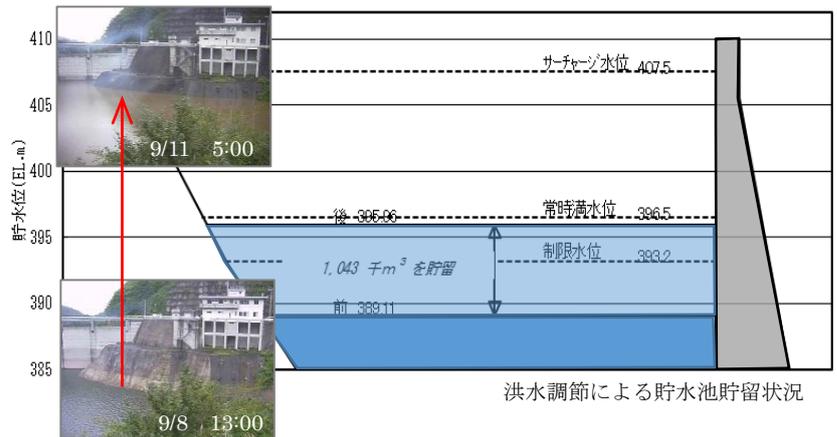
東山ダム流域では、9 月 8 日から雨が降り始め、9 月 11 日までの累計雨量は中湯川雨量観測所で 220mm、流域平均雨量は 194.04mm でした。



【 ダムの状況 】

この降雨により徐々にダムに流入する水量が増え始め、流入量最大は 57.84m³/s (9 日 21 : 50) となりました。しかし東山ダムで貯留することにより、ダムにおける下流への放流量最大は 13.15m³/s (11 日 1 : 00) でした。

今回の洪水によるダムの貯留量は 1,043 千 m³ であり、これは東京ドーム 0.8 杯分に相当する量です。

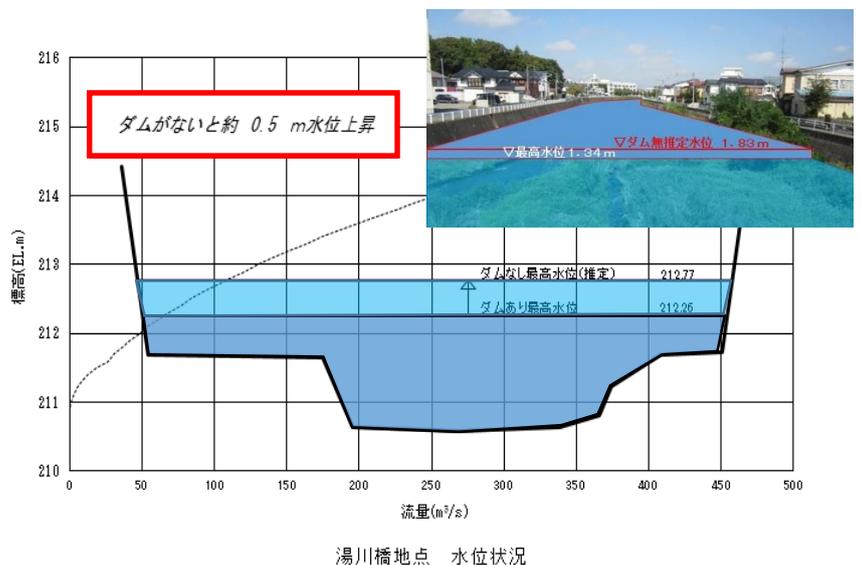


【 湯川の状況 】

東山ダムで治水基準点とする湯川橋 (会津若松市湯川町) では、水防団待機水位 1.30m (10 日 10 : 00) を越え、最高水位は 1.34m (10 日 10 : 30) になりました。

もしも東山ダムが無かった場合？

湯川橋では、ダム地点で流入量最大が発生した直後に、水位が 1.83m (9 日 22 : 00) となっていたと推定されます。この水位は、はん濫注意水位 1.80m を越え、避難判断水位 1.90m に迫る水位です。



今回の洪水では、ダムにより最高水位が約 5.0 cm 低下する効果がありました。